



八重籬神社境内に建つ
方谷の碑（墓碣銘）

が国を利用する
ため、外国
を利用するため
ではない。その
利益は国民
に施すために

文久二年当時、幕府を揺り動かしていた最大の問題は、攘夷か開国かの選択でした。この時方谷は勝静に、「開国は朝廷の御意志に沿わず、鎖国は時勢に反する。この両極に分かれて難しい局面に立っているが、誠意の立つところがはっきりしさえすれば、朝廷の御意志も時勢も幕府に従って変わってゆく」と助言しています。また、「鎖国を変更して開国するに当たっては、守りから攻めに転ずる必要があり、開国し貿易を行うことは天下の公道であり、それは我が国を利用する

慶応三年（一八六七）十二月の王政復古の大号令後の朝廷方の動きに会津藩・桑名藩・旗本らが激昂し情勢が切迫した際、勝静は方谷に善後策を求めます。方谷の意見は、「上は尊王のため、下は安民のため」という大乗的見地に立って事態を処理すべ

時は下って、明治六年（一八七三）、方谷は地元の要請を受け、「備中玉島港ヨリ伯州米子港ニ至ル車路開通ノ存意書」を起草します。その中で、「道路の開通は、往來の便利だけでなく、人民の知識を開き、風俗を同じくする基本」とうたっています。約十年にして陰陽連絡の車路が竣工。その後、昭和三年に山陽と山陰が鉄道で結ばれますが、方谷の存意書は、伯備線開通の先駆けとなりました。（文・渡辺道夫）

山田方谷に学ぶ

4

三、幕政への関与

安政四年（一八五七）八月、藩主板倉勝静が幕府の奏者番兼寺社奉行に任じられます。この時から方谷は勝静の顧問として幕政に関わることとなります。勝静は文久二年（一八六二）三月には老中（外交と財政を担当）に抜擢されます。

さらに、「沿岸の守備に力を入れることを基本に、軍法の改革と諸藩の困窮救済に緊急に取り組むこと」や、貨幣政策として、幕府による楮幣（紙幣）の発行など、さまざまな提案をしています。慶応二年（一八六六）八月、第二次長州征討時の勝静への助言では、「一橋慶喜を將軍にして、勅許を得た通商条約に従って政治を進める。長州藩の攘夷行為は勅を奉じての行為であり、とがめるよりむしろ表彰し、更新の道を与える」としています。

幕政に関する方谷の述懐は、「私が藩のことを論じたものは多く実行されたが、天下のことを論じたものは一つも実行されなかった」というものでした。三島中洲は「もし先生の道を天下に実行したならば、その効果はいかなるものであったであろうか」（三島中洲撰「方谷山田先生墓碣銘」八重籬神社境内）と続いています。



陰陽を結ぶ伯備線と国道180号
（玉川橋から望む）



災害に強いまちづくりへ 応急対策協定を締結

7月24日（金）、市は高梁市役所で、岡山県電気工事工業組合高梁支部と「災害時における市有施設の応急対策に関する協定」の締結式を行いました。この協定により、大規模災害により市有施設や避難所の電気設備が被害を受けた場合でも、迅速な応急復旧が可能となり、避難所機能の維持や被災者支援の充実が期待されます。今後も関係機関と連携し、市民が安心して暮らせる、災害に強いまちづくりを進めていきます。



高校生が制作した 松山踊り原画を表彰

7月28日（火）、備北信用金庫本店で、備中たかはし松山踊り「ポスター原画表彰式」と「備北信用金庫うち受贈式」が行われました。毎年、高梁城南高等学校デザイン科2年生が制作するポスター原画の中から、選考で選ばれた入賞作品を表彰しています。最優秀作品は、備北信用金庫が作製するうちのデザインに採用されることから、最優秀賞の受賞者には感謝状も贈られました。



夏の夜を彩る土曜夜市

7月11日（土）に高梁栄町商店街で「土曜夜市×カレーフェスタ2026」が、7月11日（土）と18日（土）には成羽町本丁商店街で「本丁土曜夜市」が開催されました。多くの来場者が飲食や買い物、多彩な催しを楽しみ、子どもから大人まで笑顔があふれました。両商店街は地域住民の交流と夏らしいにぎわいに包まれました。



土曜夜市×カレーフェスタ2026



本丁土曜夜市

給食センターお仕事体験会

7月28日（火）、高梁学校給食センターで「給食センターお仕事体験会」が開催されました。参加者は栄養教諭や栄養士、調理業務受託調理員から、給食ができるまでの工程や食の大切さについて学びました。釜混ぜ体験やスタンプラリー、ビンゴゲーム、インディアントマト焼きそばの試食なども行われ、楽しみながら給食づくりの工夫や、おいしい給食ができるまでの秘密を知るとともに、食への感謝の気持ちを育む機会となりました。

